第３期第５回　横浜市市民協働推進委員会　会議録	
日　　時	平成30年３月14日（水）午後５時00分から８時38分まで
開催場所	横浜市市民活動支援センター　セミナールーム２
出 席 者	中島智人委員長、田邊裕子委員、時任和子委員、林重克委員、治田友香委員、松岡美子委員、松村正治委員、三輪律江委員
欠 席 者	なし
開催形態	公開（傍聴者２人）
議　　題	(1)　審議事項 ア　平成 29 年度横浜市市民活動支援センター事業の検証について イ　平成 30 年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について ウ　協働事業の提案支援モデル事業・平成 30 年度市民協働事業提案アイディアブラッシュアップ助成金の審査結果について エ　よこはま夢ファンド助成金交付審査結果について (2)　報告事項 ア　横浜市市民協働条例３年ごとの施行状況の検討を受けた取組の進捗について イ　よこはま夢ファンド登録団体の決定について ウ　平成 29 年度協働の「地域づくり大学校」事業　事業報告について エ　新市庁舎における市民協働・共創スペースの検討状況について (3)　その他
議　　事	１　開会 **（委員長）**皆さま、本日ご多忙のところ、お集まりくださり、ありがとうございます。これより、第３期第５回横浜市市民協働推進委員会を開会いたします。 本日の現時点での出席状況ですが、田邊委員が１時間ほど遅れるとのことです。７人の出席で過半数の出席がありますので、市民協働条例施行規則第８条第２項の規定により、定足数を満たしており、委員会が成立していることを確認いたします。 それでは、お手元の次第に従いまして、議事を進行してまいります。はじめに、前回の議事録を確認いたします。事務局から報告をお願いいたします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**ただいま報告いただきました前回の会議録について、何か御質問、御意見ありますでしょうか。では、よろしければ前回の議事録については、御確認いただいたということにさせていただきます。 ２　議題 (1)　審議事項 **（委員長）**それでは、審議事項から始めたいと思います。なお、本日の委員会は公

	開ですが、審議事項のア　平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の検証については次年度事業の継続に関する審議、イ　平成30年度市民活動支援センター自主事業の審査についてとウ　協働事業の提案支援モデル事業・平成30年度市民協働事業提案アイディアブラッシュアップ助成金の審査結果については次年度の採択団体の審議ということで、委員会において公開で審議しますと公平性に欠ける恐れがあります。そこで、ア　平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の検証については一部非公開、イ　平成30年度市民活動支援センター自主事業の審査についてとウ協働事業の提案支援モデル事業・平成30年度市民協働事業提案アイディアブラッシュアップ助成金の審査結果については全部非公開とさせていただこうと思いますが、委員の皆様、いかがでしょうか。 ≪了承≫ **（委員長）**では了承いただきましたので、これらの議題につきましては、非公開とさせていただきます。 ア　平成 29 年度横浜市市民活動支援センター事業の検証について （この議題より田邊委員出席） **（委員長）**それでは、ア　平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の検証について、事務局から説明をお願いします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**ただ今、御説明いただきました検証の趣旨や進め方、事業評価などについて何か御質問等ございましたら、お願いいたします。よろしければ、事業実施団体の方々に 29 年度の事業報告および 30 年度の事業計画について説明いただき、その後、質疑応答を行いたいと思います。 　それでは、事務局で進行をお願いいたします。 **（事務局）**それでは、まず運営事業実施団体である特定非営利活動法人市民セクターよこはま様から発表をお願いします。準備が整いましたら、説明を 20 分でお願いいたします。１分前になりましたら、お知らせします。では、よろしくお願いします。 **（市民セクターよこはま）**資料により説明 **（委員長）**それでは委員の皆様から 20 分間の質疑応答をお願いします。 **（三輪委員）**例年に増して、非常に多角的というか、多岐にわたっていてちょっとついていくのがいっぱいいっぱいでしたが、１点質問したい点が中間支援組織との連携による専門相談のところで、接点が少なかった層、今までと少し異なった層からの相談を受けるようなことが 10 件あったとのことでしたが、具体的にどういった層かというところを教えていただけますか。 **（市民セクターよこはま）**１つは企業からの相談で、その企業は、食を通じて社会貢献的な取組をさらに広げていたいという希望をお持ちでしたので、治田さんとと

	もに CSR という切り口でお話をさせていただきました。また、その他には一般社団法人からの相談で、その方はこれから中区で活動を始めるにあたっての相談でした。日頃、法人化の選択というところでの相談は、センターでもお受けすることがありますが、一般社団法人からの相談はセンターで受けること自体はあまり多くないので、杉浦さんに相談対応をおつなぎして、杉浦さんがお持ちの団体や活動の情報幅広く伝えていただきました。 **（松岡委員）**10 件の実績があったということですが、この情報をどこで得て相談にきたのでしょうか。 **（市民セクターよこはま）**先ほどお見せした黄色いチラシは、８月発送の『animato』で全ＮＰＯ法人に送付しております。あと、社会福祉協議会や、生活支援センター、ケアプラザ等の市内の関係施設には全部お配りしております。そこから情報を得てきた方の他、行政への提案力スキルアップ道場という事業を市民局と mass×mass さんとの協働で実施しておりましたので、そこから相談につながった方もいらっしゃいました。また、つながりのまちづくりフォーラムの配布資料にチラシを入れたところ、その後に急に相談が増えたということもございました。 **（松岡委員）**実は私どもの子育て支援拠点にもこのチラシは貼ってありました。ただし、相談ができるけれども、どんな相談ができるのっていうものがもうちょっと具体的に見えてくるといいのかなと思いました。 **（市民セクターよこはま）**このチラシですが表面だけだとそれぞれの強みが分かりにくくなってしまっておりましたので、次の改訂版ではキーワードですとか端的なプロフィールを表面に入れる予定です。 **（時任委員）**『animato』の送付の件ですが、横浜型地域貢献企業約 400 社へ送付したということですが、何か反応や手応えが生まれていたら教えてください。 **（市民セクターよこはま）**つながりのまちづくりフォーラムは、今回企業が３社登壇されるということもあり、『animato』送付時にそのチラシも入れたことから、見に来てくださった方もいらっしゃいました。あとは、Face to Face にも企業の方の参加者が多くいらっしゃいました。 **（松村委員）**相談対応件数というものがでていますが、これは増えているということでしょうか。 **（市民セクターよこはま）**はい、右肩上がりに増えています。 **（松村委員）**今のは導入的な質問なのですが、要するに何を目指していくのかっていうことで、相談というのは、一つのそういう行為を通して、何かしら目指すものがあって、それは課題の解決だったりなどがあると思うのですが、結局相談を通して何をしたいのか、どうやってそのパフォーマンスを図ろうとしているのかっていうことです。 　例えばメンタルがちょっとおかしいなと思ったときに相談する人としない人っていますよね。今、例えば市民活動をやっている場合でも、何かうまくいかないなと

	いった場合に相談するっていう選択肢がある人とない人がいると思います。恐らく、多くの人たちは全然ないんだと思うのですが、とはいってもＮＰＯ関係であれば市民活動支援センターのことは大体知っていると思います。ところが今回のように多様な主体といったときに、企業だとかがいろんなところの相談を受けようとした場合に、それを市民活動支援センターに相談にいくという発想がまずはないと思うんですよね。今回、専門相談っていう形で他の人たちと連携をするという新しいアプローチっていうのは面白いかなと思ったのですが、その前に、相談というのは何かあったときに知り合いがいないからとか、お金がないからと諦めるのではなくて、どこかに声を届けられるんだっていうことを気付いてもらうことが、中間支援機能が広がっていくことだと思います。実際に相談されるかどうかもすごく大事ではあるのですが、何か地域の課題を解決したり、自分が主体的に動こうとしたときに相談やアドバイスしてもらえる人として、親しんでもらえる人たちが、潜在的に増えていけばそれで何かしらできることも増えていくのかなっていうふうにイメージしていました。なので、結局そうした相談を通して、何を実現しようとされているのか、それでどのようにそのパフォーマンスを自分たちで評価しようとされているのかということについて教えてください。 **（市民セクターよこはま）**一般的には、社会や地域の課題解決に向けて取り組んでいるっていう団体さんの相談に乗ることで、可能であれば先人達の知恵とか、そこをまた超えた団体さんを紹介したりだとか、持っている情報を提供することで少し早くそこに向き合う、向くことができるというようなショートカットと言っては言い過ぎかも分かりませんけれども、そういう効果を一義的には目指しています。実際相談を受けてみると、実は一人一人の相談に来られた方との向き合いということになります。例えば、助成金を何か自分たちに合うのを紹介してくださいっていうふうに来られることがよくあるのですが、じゃあ合いそうな助成金を紹介してちょっと書き方をお教えすればいいのかというと全然違います。その助成金を獲得したいって思ったときには、その資金調達ということがあるわけなのですが、その背景には組織基盤の問題があったりとか、運営体制の問題があったりだとか、その助成金に応募してもそこができるだけのスキルがまだたまってないだとか、そういうことを掘り起こししながらいろいろヒアリングしていくと、じゃあちょっと基盤を整えるために、例えば理事会や運営会議のやり方とかを考えてみましょうかみたいなことになったりということがあります。そういう中で、私どものいろんな講座や他機関の様々な役に立ちそうな情報などおつなぎしています。よくやるのは、同じようなテーマで既に実績を重ねてらっしゃる団体さんへつなぐっていうことです。それが今回の中間支援ネットワークの少し布石の一つでもありまして、そういう基盤を整えて本当に目指すものに向かうっていうことをぜひやっていきたいというのが一つのイメージです。そして、そのパフォーマンスをどう図るかというところなのですが、区の支援センターなどの皆さんとパブリックスクールのもう一つの枠組み

	でそのことを話しています。例えば、相談を受けるときでもＡと聞かれてＡで返すとよく言うのですが、聞かれたことに答えるっていうのはまぁできるけども、先ほどのお話したように本当のニーズっていうところに気付くというのも大事なのですが、本来は相手の方がこちらのヒアリングによって、自分自身で自分の課題に気付き、そしてこれからどういう手順でやっていこうかなっていうことを一緒に考えることで、この後の自分のアクションをイメージしながらお帰りいただく。そして、またその時間軸でフォローしながら、情報提供もし続けるみたいな、そういうことはすごく実は面倒で大変なことなんですね。それが、今、相談の記録という意味では、５行ぐらいでまとめられて一つの相談って数えられてしまうんのですが、そういうことも含めてどう評価していくかっていうことは研究中でございます。 **（治田委員）**相談も私どもも日常的に受けていますが、数えるのが大変だから数えてないです。こういう事業をやっていると数えることだったり整理することがすごく大変で、それから市民のニーズとしては相談できるかどうか分からないけど、相談できるようにしてくださいみたいなことって、私は、すみませんがまともに受けなくていいような気がしてるんです。それは市民活動自体は市民の自発的な活動であって、お守りをされるものではないというふうな認識に立たないと、なんかヨチヨチしている人まで救わなくても私はいいんじゃないかと思っています。しかも、今このご時世で言えば、社会福祉協議会だってありますし、区版の支援センターだってあるので、全てがここで担わなきゃいけないっていうふうになってしまうと、ここの事業を受けている事業主体自体がおかしくなっていくんじゃないかというふうに思っていて、市民が市民の首を縛ってはいけないんじゃないかと私は思います。ただもちろん、救わなきゃいけない層はありますから、そこのところはきっちり考えなければいけないけど、こうやって抽象論ではなくて具体的にどういう人を助けなければいけないのかっていう議論をしない限り、今のやりとりは大変申し訳ないけど不毛だなというふうに思うので、そこはもうちょっと私たち自身がどういうものをここで相談というのかというのをきちっと定義した上でやらないとよくないんじゃないかというふうに思います。今のは意見になります。 　それとやっぱり事業がどんどん拡大しているところがあって、これでどんどん上り詰めていただいていくしかないのかもしれないのですが、ちょっとこれもどこかで一回整理された方がいいんじゃないかと思います。こういう目標を立てて、こうなったっていうような報告に切り替えていく方が聞いている方もまとめている方も時間の短縮だったり、成果の共有になるんじゃないかなと思いますので。これで負荷をかけるというわけじゃなく、ある種、少しずつ整理をされたらどうかということで意見を述べさせていただきたいと思います。 **（市民セクターよこはま）**初期聞き取りを行う中でお話を聞いてみると、今まさに地域の中で問題として立ち上がったから団体としてＮＰＯをやろうとしているっていう新たなニーズみたいなことが明確に見えてくることがあります。そして、確か

	にヨチヨチしているんだけれども、筋としてはとてもいいっていうような団体さんもあって、そこは治田委員がおっしゃる通り、100 パーセントでやる必要はない、かえって力を持っている方は短時間でいいと思います。筋はいいけれども、まだそこがなかなか苦労するかなというときに、少し手厚めにはじめだけは関わるっていうようなことはあってもいいんじゃないかなと私は思っています。あと、目標を立てて、それがどうだったかっていうことは事業報告の中に全部書いてあります。今日はそれ以外のビジュアル的な部分とか、概念的な部分とか、書き込めなかったところだけを補足でプレゼンさせていただいておりまして、数値とか成果をきちっと表現するというのは当然かと考えております。 **（林委員）**つながりのまちづくりフォーラムの中で、企業の方々のまちづくりについての問題が聞けたと書いてありますがどういったことなのか。それから、この企業の方々の中で共通点みたいなのはあるのでしょうか。 **（市民セクターよこはま）**皆さん中小企業の社長さんでいらっしゃるので、社員さんへの理解というのがなかなかはじめに厳しかったという話は比較的共通して出てまいりました。そして社会貢献、地域貢献を標榜したときに、例えば区役所に相談にいったりとか、あとは本当にこれは会社のお金使ってもやろうというような趣旨がなかなか地域の方に理解されなかったけど、こういうことをきっかけにそれをクリアしていったとか、そこの苦労話をお聞きしました。 **（松岡委員）**今のお話をずっと聞かせていただくと、多分最初に相談を受ける人のスキルがとても大事だと思うんですね。そのための職員体制とかその辺についてはどうですか。 **（市民セクターよこはま）**今こちらにおります職員が８年目、４年目、３年目に入ろうとしております。それで前もお伝えしたかも分かりませんが、職員が１人うまく定着をしておりませんで欠員の状態で続いていたのですが、採用ができまして１人増えることとなりました。今回相談を拡充するにも、体制面がないととてもできないと思っています。また、事業を精査して事業を少なくしているという工夫もしております。 **（委員長）**先ほど成果の話がありましたが、成果をきちんと記述してくださっていていいと思うんですが、それぞれの研修やプロジェクトごとのその場の成果が記述の主な点だと思うんですね。それが、実際の支援ですとか、団体ですとか、その辺が見えてこないっていう意見だったようなふうに印象を受けました。その点で言うと、新しいところでネットワーク構築事業の発達障害者や様々なグループとかそういう新しい社会的課題に対応しているような方々のネットワーク化っていうのは、政策とも結び付きやすいですし、あと、ユーザーというか受益者の顔も見やすいですし、そういう支援みたいなのっていうのが成果ですとかインパクトとかが見えやすくて、すごく期待をしたいなというふうに個人的には思いました。 　では、次の説明に移りたいと思います。

	（事務局）それでは、自主事業実施団体をご紹介させていただきます。特定非営利活動法人アクションポート横浜様です。事業名は「地域の若手職員のキャリアを考え、みんなで育つネットワークづくり事業」です。説明を 10 分間でお願いします。１分前に表示でお知らせしますのでよろしくお願いします。 **（アクションポート横浜）**資料により説明 **（委員長）**それでは委員の皆様から 10 分間の質疑応答をお願いします。 **（松村委員）**質問ではないのですが、ライフステージっていう影響、すごく大きいと思うんですよね。入って何年目っていう関係ももちろんあるでしょうけども、それをどこか入れ込んだ方が分かりやすいのかなと思ったのですが、いかがですか。 **（アクションポート横浜）**ヒアリングを今回した中でも、女性で産休を取り、復帰されて同じように働かれているような方もいらっしゃったのですが、女性だとまた特別なところがあったりはすると思うのですが、そういう中でまたキャリアの選択肢が変わる部分があるので、その辺もまたセミナーとかロールモデル BOOK の中で事例として触れていきたいなと思います。 **（松村委員）**どこかに書いてありましたけど、キャリア観っていう話がありますよね。これすごく大事な話だと思っていて、キャリア支援してこうずっと上がっていくみたいな、収入も上がっていくみたいなイメージを支援と考えがちだし、ステップアップしていくっていう形だけれども、それぞれに適した働き方、生き方があると思うんですね。それをどう促すかとか、それがチェンジされれば、自分のことは自分で考えなきゃいけないってことであれば、それだけでほぼ解決しちゃう問題もたくさんあると思うんですね。そうしたものをキャリア支援という中にどう落とし込んでいくのかなというふうに思いました。 **（アクションポート横浜）**このキャリアに関する様々な議論をしても、やはり人それぞれキャリアの感じ方とか目標にしているところがすごい違いがあったりとか、課題を共有するところにこうワンステップしそうだったりとかしていたなというような印象は持っています。ただやはり交流会などでなるべく会の最初の部分にインプットトークというか、どういう趣旨で何を目指してやっているというところを共有の時間として入れています。あと、キャリアのステップっていうところで思うのは、やはり個人が必ずしもステップアップすればいいだけではなくて、それが地域のため人材としての価値になっているかっていうところにつなげていくところも必要だと思います。ちょうど先週イベントを行ったんですが、最初は個人の働きづらさとか、そういうものをテーマに会話したり、実際に働いている方の事例などを楽しくみんなで共有しました。ただ最終的には、個人が働いていけるだけの状況を目指すのではなくて、私たちがこの地域の中でどんな人材になれるのか。そして、個人で努力する。そこに集まった全員で一緒に何ができるのかという、その共有の目標づくりをするっていうところを行っていく必要はあると思っています。 **（三輪委員）**今の話とちょっと変わるかもしれないですが、例えば若手と言われて

	いるのが大学生のアンケートを基にしているところが実際にそれがいいのか悪いのかちょっと分からないところなのですが、お伺いしたいのは、私もキャリア形成の中では、自分の専門性がどこにあるかが大きく左右するんじゃないかと思うんですね。軸足というか、それってもしかしたら分かりやすい言い方をすると、大学ではなくて学部だったりとか、あるいはそこで得られている授業、自分がそこで何か反応する機会があったとかっていうようなことと、あるいは授業での大学での学びだったりとか、あるいはそれがボランティア的な活動の支援だったりとかいうところが実は入り口のところを知る部分ではすごくあると思っていて、その先に自分がそこに乗っていくかっていうのに自分がどれぐらい学んできたことだったりとか、あるいはもしかしたら社会に出たときに垣間見た分野みたいなもの、例えばＮＰＯみたいなところに入っていくっていうようなきっかけがあるのかなっていうのがあると思うんですね。そういう意味で言うと、ロールモデル BOOK を作られるというときに、結局、それを誰に向けて発信するかっていうことですね。若手と言われても 30 代と 50 代では全然その層が違います。その辺のビジョンの見解をお聞かせいただきたいと思います。 **（アクションポート横浜）**この事業で一番ターゲットとして想定しているのは、学生やできれば高校生とかそのぐらいの層です。必ずＮＰＯに勤めてねっていうわけではなく、ただキャリアとしてそういうものがあるっていうところを発信していくことも今までなかったので、そういうことができたらいいなというところで、学生とかあるいは 20 代の働いてはいるかもしれないけどこれからちょっとＮＰＯのキャリアに興味があるくらいまでの層をメインのターゲットにして読んでもらえるようなロールモデル BOOK というのを考えています。もちろん、50 代の若手の方のこれからの次世代の方っていうのもいらっしゃって、そういうところは交流会でも予想以上にお越しいただいた部分もありました。ただ、世代は違えど、課題を共有できたりとか、興味を持って参加いただけている部分があるので、メインのターゲットは学生とかに置きながら、そういう交流会で出会えた範囲では、上の世代の次世代になる方ともこういうキャリアの課題というところを共有していけたらいいかなと考えているところです。 **（三輪委員）**分かりました。ターゲットとしては高校、大学ぐらいだということは承知しましたが、どういうバックグラウンドをその期間に得るかによって、そのロールモデルというのが自分に近づいて理解できるか、遠のいていくかっていうのがあると思うので、少し今までヒアリングされていることを美化するというようなモデルというよりは、どういうアウトプットをイメージされているのかはちょっとまだ分からないのですが、どちらかというとその辺を丁寧に俯瞰する作業がちょっと必要かなというふうに思っておりますので、ぜひその辺も御検討ください。 **（アクションポート横浜）**前回のイベントでも大学のキャリアセンターの方とかもいらっしゃっていただいていて、私たちも学生のニーズとかまだ把握し切れていな

	い部分がもちろんあると思っていますので、読み物だけのロールモデル BOOK にしてしまうよりは、実際にやっぱり手を取った学生がそのキャリアをイメージできるような仕掛けをいくつか盛り込めたらというふうには思っています。大学の先生方にも御相談に行けたらなとは思っております。 **（松岡委員）**ＮＰＯのそれぞれ活躍の場がいろいろあると思うのですが、やはりその地域の中で活動していくＮＰＯや地域を知ることっていうことですよね。若手がＮＰＯに魅力を感じるのかとか、いわゆる働き方としての選択肢としてＮＰＯを選ぶかというときに、どれだけのＮＰＯを知っているかっていうところがやはり弱いと思うんですね。この事業は３年計画ですので、その辺は少し視野に入れていただいた方がいいかなと思いました。 **（委員長）**アクションポート横浜さんは今までインターンシップの受入れですとか、ＮＰＯ側の受入れ体制の経験、知見があると思うのですが、私が途中で誤解していたのですが、今の若者向けキャリアセミナーといったときに受入れ側の体制ですとか、これまで蓄積されてこられた知見みたいなものと合わせるっていうのは、何かありますか。 　また、もう一点、この登壇された方ですとかスピーカーの方々を見ると、あと先ほどそちらの説明を伺うと、例えば組織ではなくて、地域っていう話ですと、スタッフとか職員とかっていうイメージではなくて、肩書としてＮＰＯの職員というのは持っているけど、マルチワーカー的に複合的なキャリアで何とか班みたいな、そういう新しいといっていいのか分かりませんけれども、そういうキャリアっていうものを志向しているのかなって途中までは思っていたんですね。だけど最後の方になって、大学生向けのキャリアセミナーとかいうとやっぱりそうじゃないのかなとか思ったりして、その辺はどうなのでしょうか。１点目は、受入れ側のこれまで蓄積された知見を今回の取組に何か生かせそうですかということ。２点目は、私が単なる誤解しているだけなのかもしれませんが、その点教えていただければと思います。 **（アクションポート横浜）**２点目に関してなのですが、今日の説明で言葉が足りなかったなと思っているんですが、ＮＰＯの場合ってボランティアで関わっていたりしていることもあったりして、ＮＰＯを支えている人材のバランスを考えるとどうしても雇用される人材だけだと限りがあって、その周りには、イベントの参加者とかボランティアとか、もう少しコアな準スタッフとかプロボノみたいな方が増えていますし、今、企業側の働き方改革の流れで、またＮＰＯに関わりたいと思っている方も多くいらっしゃいますので、そういうところも併せて検討していきたいとは思っています。雇用されるだけじゃない関係というところも含めて、ＮＰＯとの関わり方という意味でのキャリアというふうに捉えています。 **（委員長）**ありがとうございます。では、これで質疑応答を終わりにしたいと思います。発表団体の皆様、ありがとうございました。それではこれより、次年度の継

	続についての審議に入ります。ここからは非公開となりますので、恐れ入りますが、団体の皆様、傍聴者の皆様は退席をお願いいたします。 **≪これより非公開議題のため会議録の公開はありません≫** イ　平成30年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について **（委員長）**続きまして、イ　平成30年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について、事務局から説明をお願いします。なお、これも冒頭で申し上げましたように、引き続き非公開といたします。 **（事務局）**資料により説明 **≪非公開議題のため会議録の公開はありません≫** ウ　協働事業の提案支援モデル事業・平成30年度市民協働事業提案アイディア 　ブラッシュアップ助成金の審査結果について **（委員長）**続きまして、ウ　協働事業の提案支援モデル事業・平成30年度市民協働事業提案アイディアブラッシュアップ助成金の審査結果について、事務局から説明をお願いします。こちらも引き続き、非公開となります。 **（事務局）**資料により説明 **≪非公開議題のため会議録の公開はありません≫** エ　よこはま夢ファンド助成金交付審査結果について **（委員長）**続きまして、エ　よこはま夢ファンド助成金交付審査結果について、事務局から説明をお願いします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**では、質疑に入る前に、当日の部会に御参加くださいました市民活動運営支援事業部会委員の時任委員から補足がありましたら、お願いいたします。 **（時任委員）**特に補足はありません。 **（委員長）**それではまず、今回よこはま夢ファンド登録団体助成申請のあった12事業について、何か委員の皆様からございますか。 **（松村委員）**今回、増額となっている団体が２団体ありましたけれども、どんな議論がされたのでしょうか。 **（時任委員）**部会でも点数と増額・減額に関して議論をしています。新しい仕組みになってから時間がたっていないため引き続いて検討していかなければならないし、申請団体もこういった結果を注意深く見ていると思います。申請団体の意識もきちっと把握しながら慎重に進めていこうと話しています。 **（委員長）**結果だけをみると増額した団体については申請金額に合わせているんでしょうか。 **（時任委員）**団体からの申請金額に合わせています。なので、申請金額に合わせた

	金額で、今回、助成が行われます。今後は、金額を考慮して採点する必要があるのかどうかというところも考えていく必要があると思っています。 **（委員長）**他の委員から何かありますか。よろしいですか。それでは、平成 30 年度第１回よこはま夢ファンド登録団体助成金申請の 12 事業について、部会の審議結果を御了承いただけますでしょうか。 ≪了承≫ **（委員長）**引き続き、平成 30 年度よこはま夢ファンド組織基盤強化助成金申請のあった９団体についての審議に移りますが、９団体のうち、ＮＰＯ法人ミニシティ・プラスにつきましては本委員会の三輪委員が理事を、ＮＰＯ法人ぷかぷかにつきましては松岡委員が理事を務めてらっしゃると伺っております。それぞれの委員は当該法人の審査に加わることができません。したがいまして、まずはそれ以外の７団体について審議いただければと思います。これは部会委員の時任委員から何かありますか。 **（時任委員）**こまちぷらすさんと神奈川県転倒予防医学研究会さんは、登録してすぐにこの組織基盤強化助成金、登録助成金、両方に手挙げをしてきています。こういう助成金があるということが知られてきていると感じます。 **（三輪委員）**基本は 60 点以上だったら助成対象とするみたいなイメージなのですか。例えば、団体同士の差が１点しか違わない場合、その辺はどんな議論になるのですか。 **（事務局）**おっしゃる通り基準点を基本に団体を決定していくのですが、今回は募集が８団体というところでしたので、上位８団体を選考させていただいたというところです。 **（三輪委員）**点数は、団体側に示されるのでしょうか。 **（事務局）**はい、お示しいたします。 **（委員長）**基盤整備って、事業をやっていて基盤整備の課題があってはじめて基盤整備の事業が意味があるのではないかなと思うんですね。だから、新しい団体の場合やってみないとまだこれから何が課題になるのかも分からないというところがよくあって、他の自治体でもやっているんですが、事業費の規模として、事業費よりも基盤整備のほうの費用というのがちょっと若干奇異に映るのではあるんですが。 **（時任委員）**こまちぷらすさんの件で言いますと、いろいろ活動してきて、様々なスタッフが様々な働き方をしているという団体さんなので、スタッフの働き方を今一度再確認するということと、より働きやすい環境を模索していくといったミッションもあり、そこに社労士さんを入れるという助成金の使い方です。事業を行うというは、社労士さんを入れることで、基盤や、働き方、給与体系を整備するということで申請されてまいりました。 **（治田委員）**労働環境体制強化ということで社労士さんにお金が行くっていう話は

	いいのですが、この手のものばかりが出てきたときどうするのかなというのをちょっと考えておきたいなというふうに思います。何かそれよりももうちょっとＮＰＯ全体の働き方に対していろいろ発信してもらうとか。この助成金自体は団体で使えばいいものだからすごく難しいのですが、そういう社会的な助成とかも少し見えるといいのかなというふうに思いました。 **（松村委員）**この組織基盤助成金は３年やったんですよね。最初はどんなふうに育つのかなと思っていましたけども、思ったよりは結構申請くださってるなっていう印象を持っています。ただ始まる前と終わった後に振り返りやるのですが、その後どうなっているのかのフォローアップをそろそろ調査をしていった方がいい時期なのかなと思っております。またきっと課題にぶち当たっているような気もしないでもないので、もしそうしたことをやっていただけるとまたそのフィードバックを次に生かせるなと思っています。 **（委員長）**参考までになのですが、私が関わっている藤沢市がＮＰＯで抱えている課題は結構共通な点が多いので、中間で分かち合いの会をやったりしています。ただし、その代わり最後の報告会は分かち合いをしないんですけども、中間で分かち合いをやってフォローアップって確かに課題だと思います。 **（松村委員）**申請書をみていると結構ウェブの再構築みたいな申請が多くて、30 万円でウェブを再構築して一体何を目指すのかっていうところですね。ちょっと心配というか、何となくウェブはもちろん古くなったら再構築はしたくなるんですけども、何のためにというところがはっきりしないと、やりましたっていうだけなっちゃうと思います。それはそれでフォローアップと重なりはするのですが、そこがちょっと心配だなって危惧をしております。 **（時任委員）**その件についてはこの前の部会でもホームページのリニューアルの他に問題点があるんじゃないかと話が出ておりました。ですからこれは事業が始まる前にファシリテーターと団体、市民局との打ち合わせの機会がありますので、そこでその辺りを少し確認しようということになっています。また、この事業は申請内容を途中で変更できるということがありますので、もっと先にやらなきゃならない課題があるとなったら、そちらに変更することもできると思います。 **（委員長）**ありがとうございます。他によろしいですか。では、審議に移りたいと思います。まずＮＰＯ法人ミニシティ・プラスとＮＰＯ法人ぷかぷか以外の団体について、部会の審議結果を御了承いただけますでしょうか。 ≪了承≫ **（委員長）**では、三輪委員は大変恐縮ですが、傍聴席にお移りください。では、ＮＰＯ法人ミニシティ・プラスについて、部会の審議決定を御了承いただけますか。 ≪了承≫ **（委員長）**では、三輪委員、お戻りになってください。松岡委員は大変恐縮ですが、傍聴席にお移りください。ではＮＰＯ法人ぷかぷかについて、部会の審議結果

	を御了承いただけますか。 ≪了承≫ (2)　報告事項 ア　横浜市市民協働条例３年ごとの施行状況の検討を受けた取組の進捗について **（委員長）**では、報告事項に移りたいと思います。ア　横浜市市民協働条例３年ごとの施行状況の検討を受けた取組の進捗について、事務局から説明をお願いします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**ではただ今の説明について何か質問等ございましたらお願いいたします。協働契約ハンドブックを具体的に活用するとか、提供するといった今のところ計画はありますか。 **（事務局）**ハンドブックの活用でございますが、来年度市職員の研修会などで活用していきたいと思っております。また、庁内各部署にこういったものができたということを周知し希望に応じてお送りするようにもしておりまして、もうすでに何部欲しいというような要望をいただいておりますので、引き続き積極的に活用していきたいと思っております。 **（委員長）**ありがとうございます。では、次の議題に移りたいと思います。 イ　よこはま夢ファンド登録団体の決定について **（委員長）**続きまして、イ　よこはま夢ファンド登録団体の決定について、事務局から説明をお願いします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**ではただ今の説明について何か質問等ございましたらお願いします。では、次の議題に移りたいと思います。 ウ　平成 29 年度協働の「地域づくり大学校」事業　事業報告について **（委員長）**それでは、ウ　平成 29 年度協働の「地域づくり大学校」事業　事業報告について、事務局から説明をお願いします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**ではただ今の説明について何か質問等ございましたらお願いします。 **（三輪委員）**私の学生が西区の地域づくり大学校を受講して、その後どうなったかという後追いの調査をさせていただきました。その振り返りの中で若い人たちが受講しているものや、意欲的に若い人が入ってきたりしているという話があって、かつその方々がもともと何も活動していなかったのだけど、活動をちょっとやろうかなと思って動き出したり、あるいはさらに発展したりみたいなところがいくつか事例としてみえてきました。いずれにしろ 18 区に広がったということで、今年度とか

	来年度とかっていう直近の話ではないのですが、少しその辺のこの効果的なところをフォローして、場合によっては方向調整していくというところは一度検討していただいてもいいのかなと思いました。卒業生の後追いみたいなところを各区の方でも把握していただくっていうのもありかなと。 **（松岡委員）**私の子育て支援拠点にもこのスクールの人たちはいらっしゃるというような形で関係はしているのですが、やっぱり学生は少ないと思いました。また、地域性もあるんだと思うのですが、これからリタイアされた方が今後どうしていこうかっていうところで、その先の受け皿が結構ありそうでなかったりとか、自力で得たスキルをどうやって生かそうかというときに提供できるものをどれだけ用意できるのかなということも思いました。 **（松村委員）**協働契約の相手方というのは各区が選んでるというふうに考えてよろしいのですか。 **（事務局）**はい、その通りです。 **（松村委員）**どういう相手が望ましいのかというのは、逆にないのかなと思っていまして、例えばまち歩きをするといったときに、歩いていて土地勘が分かっている人が主導するまち歩きと、そうでないまち歩きがあるような気もするし、例えば活動計画みたいなのを立てるときにも何か芽が出てきたときにその主要なアクターを思い付いてこれはこんなことできるよねっていうふうにすぐに提案していけそうなところと、そうでないところっていうのが多分あるだろうなと思います。そういう意味では、地域にある程度詳しいところが入ったほうがいいのか、ただそれだとちょっと広がりがなくなっちゃうものがあるので少し違うところから入ってきたほうがいいのか、それも多分いろいろあっていいのかもしれませんが、何かもしそういうものがあるのであれば教えていただきたいと思います。 **（事務局）**三輪委員がおっしゃったように、ここで学んだ後どうその学びを生かしていくか、それがやはり一番大事だと思いますので、その先につながるフォローアップや活動を実施団体が一緒になって伴走していくことで実践につながっていくっていう良さという意味ではあると思います。例えば、市域ですとかさらに広い範囲で活動されているＮＰＯですとか、協働契約の相手方の方と一緒にやることで、その地域の中だけだと解決できないようなものに対して、新たな視点を導入できたりとかそういったメリットはあるかと思います。ですので、協働の相手方は、例えば区域で活動している中間支援組織であったとしても、講師としてそういう知見を持った方をお呼びしたりですとか区もいろいろな工夫して取り組んでいるように感じております。 **（委員長）**私から単純な質問なのですが、職員の方の人数が書いてあるのですが、これはやはり区によってアプローチとかが違うから、こういう考え方になっているのでしょうか。 **（事務局）**区によっては地域支援に携わる職員や新任職員は必須とするというよう

	に位置付けている区もございますし、あくまでも強制ではなくやはり自分の発意でということで位置付けている区もありますので、そこの部分にはばらつきはあるかなと思います。 **（委員長）**ありがとうございました。では、次の議題に移りたいと思います。 エ　新市庁舎における市民協働・共創スペースの検討状況について **（委員長）**それでは、エ　新市庁舎における市民協働・共創スペースの検討状況について、事務局から説明をお願いします。 **（事務局）**資料により説明 **（委員長）**ではただ今の説明について何か質問等ございましたらお願いします。 **（三輪委員）**スケジュールの中で、来年度は団体選定とか募集要項を審議するということになると思いますが、スペースもしくはその周辺の計画の内容みたいなものって結構連動すると思うのですが、どれぐらいのスケジュール感でそれが関連してみえてくるようになるのでしょうか。 **（事務局）**この低層部の商業機能部分につきましては、既に事業者の募集が始まっております。協働・共創スペース以外の他の部分である屋根付き広場や他の展示スペースなどは協働スペースよりも先行して事業者選定を行う計画となっております。今のところ、恐らくそれも 31 年度中になろうかと思います。協働・共創スペースの運営事業者の選定にあたりましては、今、三輪委員から御指摘がありましたように、他のスペースの部分の検討状況やいろいろと情報提供しながら、募集要項などを決定していきたいと考えております。 **（三輪委員）**ということは、協働・共創スペースの応募要項を検討するときには、アトリウムやプロムナードの事業者は決まっているという考え方でいいのでしょうか。 **（事務局）**協働・共創スペースの募集集要項を審議する段階では、恐らく事業者は決まっていないと思います。 **（三輪委員）**先行して向こうの募集要項が先に確定はしているっていうことですね。 **（事務局）**恐らくそうだと思います。 **（三輪委員）**分かりました。では今の話で関連すると、プランニングもそうなんですけど、その要項と事業内容みたいなものも検討の材料になるかなと思いますので、その辺も調整を進めていただければと思います。 **（委員長）**ではその他、特になければ次の議題と移りたいと思います。 (3)　その他 **（委員長）**それでは全ての議題が終了しましたが、全体を通して何かありますか。 **（松村委員）**センター自主事業ですが、今までやってきたけれどもちゃんと広報さ

	れているような感じでもなくてちょっともったいないなと思っていました。例えば先ほどの議題でありましたが平成 30 年度は活動の場づくりみたいな事業のときにちゃんと見える形でやられてなければ知っている所に派遣しましたとかになって終わってしまうと不透明だなと思います。決まったら広報するという感じになるのでしょうか。 **（事務局）**自主事業団体と運営事業団体との連携も行うというふうになっていますので、市民活動支援センターのメールマガジンとかウェブでの広報の支援などは連携して実施していきたいと思います。また、それ以外にも実施団体のＰＲ支援や広報支援などはしていきたいと考えております。 **（治田委員）**今回、協働提案事業にエントリーする人を増やすということに関わらせていただいたのですが、やはり発信しないと伝わらないということは感じました。例えば、市民活動支援センターの自主事業っていっても、私がエントリーできるかもって思わない人の方が多いんじゃないかもしれないっていう気がしていています。それとこの間旭区に行って講演をさせていただいたのですが、区レベルでも補助金という形で結構な金額が出ていることを知りました。そういう意味では団体がどの補助金に適しているかどうかっていうところが、もしかしたら見えてないところもあったりするのかなと。場合によったら区レベルの職員の研修とか情報交換の場を市民局が作って、例えば年に１回、今年から何区ではこういうのが始まりましたとか、実は制度があっても使われてないだみたいな話とかそういうのもやってみてもいいのかなと思いました。 **（松岡委員）**本当にそうだと思います。区と市との連携っていうのがすごく取れていないと感じています。区でも結構制度があるんですよね。たとえば補助金がきれた後どうするかってなったときに、その先にこういうのがあるんだよとかそういうことをアドバイスしてくれるスキルを持った職員がいればいいのですが、いないと相談に行っても分かりませんということになってしまいます。そういう相談窓口がどこなんだろうって私はそれを思っていて、やはり区版の市民活動支援センターが本当はそこを全部把握していて、市では国ではこういう助成のものがありますよとか、ここまであなたたちはスキルがあるんだったらこの先はこっちじゃないですかとか、そういうことを教えてもらえるといいと思います。ナビゲートしてくれる人がやっぱり足りてないんだと思うんですね。調べればいっぱいあると思いますが、そこを市民団体だけ探すのはなかなか厳しい。 **（林委員）**旭区の連合自治会町内会の会合の中でもやはり助成金が全て３年で終わりじゃないかということでいろいろと意見を出している中で、区の方でその意見を踏まえて初年度は 30 万、２年目が 20 万、３年以降５年まで 10 万ずつを出すということで旭区は助成金期間を延ばしました。私の方もそれを活用して高齢者支援だとかいろいろとやっているのですが、職員は非常によくやってくれていて声を掛けてくれます。こういうのがありますよ、こういうのをやってみたらどうですかといろ

	いろと提案をしてくれていますので、旭区の場合は、わりとうまく進んでいるかなという気がしています。 **（治田委員）**成長段階に応じた情報発信とか、やっぱり伝えられないものをどう伝えるかみたいなことっていろんな意味で工夫してもいいのかなと。こういう私たちが発信者になるということもあると思いますけど。 **（事務局）**区役所は条例により地域協働の総合支援拠点ということになっておりますので、地域に出向いていってつないだりとか、市と区との情報も共有して支援が途切れないようにやっていくことが大切かなと思っております。ですから職員もそういうことを勉強して地域の皆さんの期待に応えられるように対応していくことが大変重要だと思っています。そういった中で、やはり軸となるのは区民活動支援センターだと思っておりまして、区民の皆さまから頼られる存在にならなくちゃいけないと思っています。地域との接点ができた人をいかに地域の必要な所につないでいくか、必要な情報をつないでいくかっていうところで区民活動支援センターの機能強化を図ってまいりたいと考えております。 **（治田委員）**区民活動支援センターにお任せするのもそうなのですが、実際の担い手を考えるとそこまで専門知識がない人もいて、むしろ区の担当の方とか、市内の NPO でも専門性をもっていているところもあって、そういう意味で横浜ってすごいなって思うのですが、そこの専門性を問うのであればもっと受ける側の人材育成だったり働く環境の評価だったり、そういうのもぜ併せて考えていただかないといけないと思います。なんでも市民活動支援センターや区版のセンターにいってしまうのもどうなのかなと思います。 **（時任委員）**やはり全て区民活動支援センターが市民活動の情報を持っているとか、区民の要望に応えられるかっていうとまたそれも一長一短では無理だと私も思います。たとえば NPO の部分とか市域の情報となると週に１回何曜日は NPO の実践者がくるからその人に相談してみたらというように部分委託みたいなことができるといいのではと思います。本当に市民活動支援センターや区版のセンターで全部を担うというのは大変なので、じゃあここの部分はこういう団体に任せたらどうかとか、この部分はこういう人が区域にいるからこういう人を活用したらどうかというようにできると、区版のセンターもいいし、団体も経験が積めていいのではないかと思います。 **（事務局）**おっしゃる通り区民活動支援センター職員がスーパーマンのように全ての知識を持って対応するっていうのはなかなか難しいところがありますので、この提案についてはじゃあここの人に相談すればいいねというかたちでちゃんとつなげてあげられればいいのかなと思っています。区民活動支援センターの職員が全部答えるということではなくて、あそこに行けば、どこかに着実に求めている所につないでくれるというような組織になっていけばいいと思います。 **（委員長）**ありがとうございます。では、最後に事務局から何かありますか。

	（事務局）次年度の日程について連絡 ３　閉会 **（委員長）**では、以上をもちまして、全ての議事が終了いたしました。これをもちまして、第３期第５回横浜市市民協働推進委員会を閉会いたします。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。
資　　料	・資料１－１　：平成 29 年度横浜市市民活動支援センター事業の検証について ・資料１－２　：平成 29 年度横浜市市民活動支援センター運営事業部門（特定非営利活動法人市民セクターよこはま） ・資料１－３　：平成 29 年度横浜市市民活動支援センター自主事業部門（特定非営利活動法人アクションポート横浜） ・資料１－４　：横浜市市民活動支援センター事業評価基準 ・資料２－１　：平成 30 年度横浜市市民活動支援センター自主事業の審査について ・資料２－２　：自主事業部門提案書評価基準 ・資料２－３　：平成 30 年度横浜市市民活動支援センター自主事業提案事業一覧 ・資料２－４　：横浜市市民活動支援センター自主事業提案書 ・資料３　：協働事業の提案支援モデル事業　平成 30 年度市民協働事業提案アイディアブラッシュアップ助成金の審査結果について ・資料４－１　：よこはま夢ファンド助成金交付審査結果について ・資料４－２　：平成 30 年度第１回よこはま夢ファンド登録団体助成金申請 ・資料４－３　：平成 30 年度よこはま夢ファンド組織基盤強化助成金申請 ・資料５－１　：横浜市市民協働条例の施行状況の検討を受けた取組の進捗について ・資料５－２　：ＡＭＰＥＲＳＡＮＤ協働実践　市民と市職員のための協働契約ハンドブック ・資料６　：よこはま夢ファンド登録団体の決定について ・資料７　：平成 29 年度　協働の「地域づくり大学校」事業　事業報告 ・資料８　：横浜市新市庁舎の市民協働・共創スペースの検討状況について